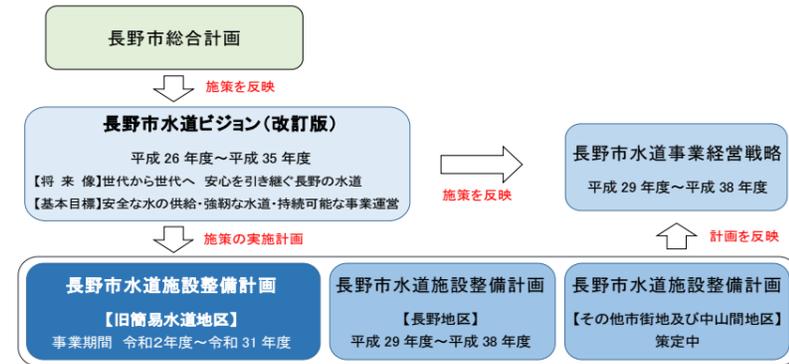


長野市水道施設整備計画【旧簡易水道地区】（案）の概要

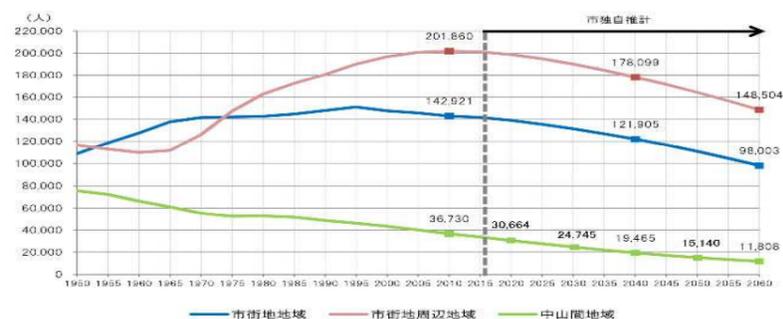
1 整備計画の目的

- 長野市水道ビジョンに掲げる基本目標の「安全な水の供給」「強靱な水道」を実現するため、中長期的な視野に立った整備計画の策定。
- 水源や施設の統廃合及びダウンサイジングにより、老朽化した水道施設の更新を適正な規模で効率的に実施。併せて、給水区域の再編による水運用の効率化を図る。



2 旧簡易水道地区の現状と課題

- 人口・水量の減少**
長野市人口ビジョンでは、中山間地域の人口は2040年には2万人を割り込むと推計。旧簡易水道地区も給水人口が減少。業務・営業用・工場用等の水量は、今後も横ばいで推移していくと想定されるが、給水人口の減少により生活用水量は減少。
- 配水機能の確保**
旧簡易水道地区は、家屋が点在しているため管路延長が長く、消火水量を確保する必要があることから管路のダウンサイジングが難しい。
- 施設数の多さ**
給水区域が主に山間部であるため給水人口に対して施設数が多く、維持管理の負担が大きい。



地区別人口の推移と将来推計(長野市人口ビジョン【H28.2】より抜粋)

地区	給水人口	管路延長(m)	水源	浄水場	配水池	ポンプ場	減圧槽	調整槽	計
旧簡易水道地区	9,857	592,264	43	8	148	34	117	1	351
旧上水道地区	259,501	1,869,722	14	11	108	24	96	1	254

旧簡易水道地区の水道施設

3 旧簡易水道地区の整備方針

- 個々の施設に対する整備の必要性・優先度を判断するため、地域別の水需要予測の結果を踏まえ、将来の水運用構想を策定します。
- 水運用構想を踏まえて各施設の将来的な方向性を明確にします。
- 将来を見据えて投資効果の高い施設(将来水運用構想の基幹施設、将来的にも一定の水需要が見込める、市庁舎などの重要施設がある等)の整備に注力し、優先的に投資を行っていきます。
- 上記③以外の施設は、積極的な整備対象とせず、修繕などの対応により可能な限り延命化を図っていきます。
- 施設整備全般として、水需要が減少傾向にあることから、施設の統廃合等により可能な限り施設の効率化を図っていきます。
- 人が住まなくなった集落については、給水契約者との同意形成を基に給水区域からの除外を検討していきます。

整備内容

- 戸隠地区、鬼無里地区の水運用の安定化
戸隠浄水場系増量、戸隠-鬼無里間送水施設整備等
- 水質安全性確保
戸隠地区上野水源の改修(クリプト対策)、上野水系拡張整備等
※上野水系拡張により水景苑水源廃止
- 施設健全性確保
老朽施設の更新(鬼無里地区町下・町上配水池、戸隠地区越水配水池更新等)

5 大岡・信州新町・中条地区の整備計画

大岡・信州新町・中条地区の将来水運用構想

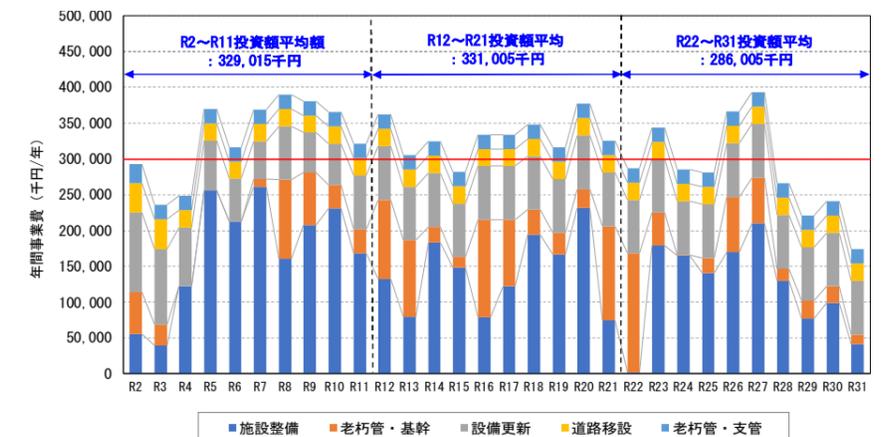
- 信州新町地区穂刈浄水場の負担軽減のため、大岡地区の給水区域拡張を検討する。
- 穂刈浄水場の負担が軽減できた段階で、穂刈浄水場系を拡張し花倉水源・花倉配水池を廃止する。
- 信州新町地区の鹿道水系・日名水系を統合し施設を一本化する。
- 水需要の減少に伴い、適正な規模での水道施設の再構築を行う。

整備内容

- 信州新町地区の水運用の安定化
大岡-信州新町間送水施設の検討、穂刈浄水場設備導入等
※施設数 10施設 ⇒ 5施設
- 施設の効率化
鹿道・日名水系の統合
※施設数 6施設 ⇒ 2施設
- 施設健全性確保
老朽施設の更新(信州新町地区下川ポンプ場、安用ポンプ場更新等)

6 概算事業費

「長野市水道ビジョン」により、旧簡易水道地区の年間施設整備の目安は年間約3億円とされています。今後30年間の投資総額は約95億円の見込みとなります。



旧簡易水道地区の今後30年間の施設整備投資計画

長野市水道施設整備計画【旧簡易水道区域】(案)資料

◆ 目的

施設の効率化 : 鹿道・日名水源の統合
 →日名水系を鹿道水系に統合し、既存施設の統廃合を行う

